

## (様式例 2)

## 中学校の指導改善プラン（学校用）千代田区立九段中等教育学校

## 達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題

## ○成果 ▲課題

	第1学年	第2学年	第3学年
国語	○定期考査では評論文、小説、詩歌、現代語文法など幅広く出題し、正答率は90%程度であることから、学習定着率は良好であるといえる。授業内では、粘り強く意欲的に文章に向き合う生徒の姿が見られる。 ▲課題となるのは文学的文章の読解である。文章を適切に読む力を身に付けたいと、言葉の価値を尊重する態度を養う必要がある。	○文章を構造的に読む力を養っており、特に物語を多角的に読むことを通して着眼や読解の豊かさにつながっている。 ▲なんとなく文章を読んでしまうことが多く、文法などの抽象的な理解や論理的な読解に課題がある。単文から論理的に読み解く力を付け、抽象的な思考の基礎となる指導を行う。	○授業では、討論や発表を通して論理的に読み解く力を培っており、それが表現の理解や読みの深まりにつながっている。 ▲古典の読解には依然として課題があり、特に上位層・下位層で大きな差が見られるため、重点的な指導が求められる。
社会	○社会事象に対する意欲・関心の高い生徒が多い。グループワークやまとめ作業などは段取りよく進めることができる。 ▲基礎学力が二極化していることが定期考査等の学力考査に表れている。個に応じた対応に取り組むとともに言語活動の充実を通して「知識の活用」を見据えた指導の必要がある。	○社会的事象に関する知識・技能の定着度は高い。また班活動や自主的な調べ学習に意欲的な生徒が多い。 ▲特に下位層に対して、学習状況を確認して復習の機会を設けるなど、個に応じた対応に取り組む必要がある。上位層に対しては、更に能力を伸ばすため、社会的課題を取り組ませるなどが必要である。	○社会的事象に関する興味・関心が高い。また、基本的な知識・技能の定着度は高い。 ▲特に下位層に対して、学習状況を確認して復習の機会を設けるなど、個に応じた指導を行う必要がある。上位層に対しては、社会的事象をより多面的・多角的に考察し、深い学びにつながる活動に取り組ませる必要がある。
数学	○定期考査では正負の数、文字式の計算を中心に問題を出題し、正答率は70%を超えた。中でも正答率が80%を超えた生徒が全体の25%で、多くの生徒が知識・技能と思考力・判断力・表現力を高いレベルで身に付けている。 ▲一方で正答率が60%を下回った生徒が全体の12%で、A層とD層の差を感じる。D層の生徒には基礎、基本の見直しを行い、今後の単元で生かせるような計算力を身に付けさせる。	○毎週課題を提示し、基礎学力の向上を図っている。学力推移調査では基本問題、計算問題において全国平均をそれぞれ上回る事ができた。 ▲関数分野で全国平均を下回った。また学力推移調査における平均GIZがBI <sup>※</sup> であるため、下位層を引き上げられるような取り組みをしなくてはならない。 ※ GIZは学力を表す数値であり、上からS、A、B、Cであり、BIはB層の中で上位の層である。	○授業時間以外にも定期的レポート課題を課したり、放課後スタディ等を通して、演習量を増やすことで、少しずつ実力があがってきている。また、応用的な問題を多く扱い、物事を発展的に考える力が伸びてきている。 ▲一方で、既習事項の定着は全体的に十分でない。2学年最後に、2年間の総復習をしたが、3学年初めの確認テストで十分な結果を出すことができていない生徒が多い。繰り返し、既習事項を復習する機会を設けたい。
理科	○課題に対して仮説を立てる力の育成に重点的に取り組んでおり、既習事項をもとに仮説を立てられる生徒が増え、より意欲的に実験に取り組む姿勢も見られるようになった。 ▲結果をもとに考察を述べる力に課題がみられるため、レポート添削時に考察の添削をより重点的に行っていく。	○仮説を立てて実験をする力の育成などは重点的に取り組んでおり、自分たちで誤りや間違いを論理的に考えようとする姿勢が見受けられる。 ▲基礎事項の定着に関しては差がみられる。いわゆる知識・技能が生きた知識として活用することができていない生徒も見受けられるため、授業内で個別に声掛けをするともに、場としての環境整備にも努めていく。	○論理的に物事を考え、複数の情報をつながりや規則性を見出す力を育成することを重点的に行っており、生徒たちもその成果を感じていることがアンケートからも読み取れる。 ▲発展的な課題に取り組んだ時の、発想力に課題がみられる。生徒たちも同じ部分に伸びしろを感じており、年度末に向けて、課題解決体験を増やしていき創造性を養う。
英語	○スピーキングおよびライティング活動において、間違いを恐れずに自身の言葉を用いて表現をしようとする姿勢が多く見られる。 ▲文法の定着に課題がある。学習した文法事項を使用し活動を行った後、既習事項について整理を行う時間が必要である。	○スキットやスピーチ等の発表活動に意欲的な生徒が多く、間違いを恐れずに自身の言葉を用いて表現をしようとする姿勢が多く見られる。 ▲語彙習得に少々課題が見られる。単語帳を用いて読んで書く活動を充実させる。文法や本文導入の際に「気付き」を多く与え、理解に繋げる。また、定着が遅れている生徒には個別に指導する。	○自身の気持ちや考えなどを整理しては発表する活動を多く取り入れたことにより、自身の言葉を用いて表現し前向きに相手に伝えようとする姿勢が多く見られる。 ▲表現欲が高まったことにより、文法や語彙の習得に対する意欲が高まってきているので、機会を失わぬように導入を行う。

## 授業改善の方針

国語	定期考査では評論文から文法まで幅広く出題し、90%程度の正答率で学習定着は良好である。授業では生徒が意欲的に文章に向き合い、討論や発表を通して論理的読解力を培っている。説明的文章の読解力は全学年で良好だが、文学的文章の構造的な理解と古典学習に課題がある。特に古典では上位層・下位層の差が顕著である。今後は、文学的文章を論理的に読み解く指導を充実させ、現代の生活や言語規則と関連づけた古典指導を実施する。また、小テストで言語知識の定着を図り、読書習慣の形成を促進して総合的な言語能力の向上を目指す。
社会	今年度は、協働的な学びと個別最適な学びの実現をさらに推し進める。高い学習意欲を土台として、協働的なグループ活動や振り返り・表現活動を充実させ、自ら問いを立て探究する学習へと発展させる。また、学習へのモチベーションを一層高めるため、社会とつながる課題に取り組む場面を積極的に取り入れる。一方で、基礎学力の定着が十分でない生徒には、理解度を確認しながら復習や表現の機会を丁寧に設け、個々に応じた支援を行うことで、着実な学びの積み重ねを図る。
数学	基礎学力の向上は見られるものの、D層の底上げと関数分野の強化が課題であり、下位層の引き上げが全体の底上げにつながる。D層（12%）向けに個別指導時間を設け、基礎計算力の反復練習を強化する。関数分野に特化した教材開発と演習時間を確保し、既習事項の定着のため、単元終了後も定期的な復習課題を組み込む。放課後スタディを層別に実施し、D層には基礎、B・C層には応用力強化を図る。2年次のC層への引き上げが3年次のD層減少につながるため、学年間の連携も強化していく。
理科	仮説構築能力と論理的思考力の育成において一定の成果が見られている。生徒は既習事項をもとに仮説を立て、意欲的に実験に取り組む姿勢が定着してきた。一方で、実験結果からの考察力には課題があるため、レポート添削時に重点的な指導を行う。また、基礎知識を実験的に活用できない生徒も見られるため、個別指導と学習環境の整備を進める。発展的課題における発想力向上のために、年度末に向けて多様な課題解決体験を増やし創造性を養成する。これらの取り組みを通じて、知識の定着と活用、論理的思考と創造的発想の両面から生徒の科学的思考力を育成していく。
英語	各学年においてスピーチやプレゼンテーションなど、学習した文法を使用することにおいてターゲットグラマーや教科書の表現の定着を図る。その際に、言語が使用される場面や状況を特に意識させ、生徒の記憶に残るよう、表情や声のトーンなどを工夫させる。文法・語彙については毎年の課題であるが、単元ごとに単語テストや文法確認のテストを行ったり、目標文法を使用させる英作文を行ったりする。また、共通エラーを拾ってクラスで共有するなど工夫をしていく。
音楽	音楽文化の多様性に触れながら、生徒が「音楽文化の見方・考え方」を身に付け、思考力や表現力を育てる授業づくりを進めている。歌唱では、日本歌曲や合唱曲に加え、他国の歌曲も扱い、言語と音楽の関係に注目することで表現力の幅を広げられるように指導していく。合唱では、グループでの対話や振り返りを重視し、協働的に課題を解決する力を養う。鑑賞では、日本の伝統音楽や世界の音楽など多様な文化に触れ、「どのような音楽からどのように感じたか」を言語化する活動を通して思考・表現力を高めている。言語化することが難しい生徒には、表現の語彙集などを配布し、自分が感じた言葉を選ぶようにしている。器楽では、箏曲を中心に、日本音楽の音を体感する学びを行っており、他の和楽器や西洋楽器との比較を通じて多角的な視点を育成する。今後もワークシートや発表活動を活用しながら、主体的・対話的で深い学びを促進し、「感じる・考える・伝える」音楽の力を育てていく。
美術	生徒たちは自身について考え、意欲的に作品制作に取り組むことができている。また、デザインを通して課題解決の方法を模索し、作品制作に繋げる力も身につけてきている。鑑賞活動においては、作品との出会いを通して鑑賞を深め、自分の言葉で表現することができる生徒が増えてきた。しかし、根拠をもって自分の考えを生み出すこと、自信をもって自分の感じたことを他者に伝えることに課題がある生徒も見受けられる。今後は、多様な作品との出会いの場を増やし、作品を構成する要素を見付け、感じたことを関連付けられるよう指導していく。具体的には、「思考力・判断力・表現力等」を高めるためのワークシートの工夫や、対話型鑑賞の機会を設け、自分なりの解釈ができるよう環境の充実を図る。また、「学びに向かう力・人間性等」を育むため、個々の感性や理解度に応じた声かけや指導を行い、表現する自信を育てていく。
保健	男女共修の中で生徒同士での話し合い活動が増え、これまでに比べ思考する時間が増えている。特に表現運動において顕著に成果が見られ、よりよいものを作り上げようとする姿勢が見られる。今後はゴール型・ネット型・ベースボール型の中でも多くの時間と活動を確保できるように改善していく。
技家	実習を中心とし、体験的な授業を実施していく。調理実習や被服実習、グループワークなど多岐にわたる自主的に学ぶことのできる場を工夫する。その際、教材の視聴などからも理解を深め、学んだことを家庭等で実践する意欲につなげ、技能の定着を図る。また、グループによる発表で、自分の考えを意欲的に伝えることができるようにする。